

家 庭

目 次

1	家庭科改訂のポイント	1
2	家庭科の目標のポイント	3
3	家庭科の内容のポイント	5
4	家庭科の指導計画の作成と内容の取扱いの改善ポイント --	9
5	奈良県の郷土素材などを活用した指導例	12

1 家庭科改訂のポイント

(1) 改善の基本方針

- 家庭科については、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から、その内容の改善を図る。

その際、他教科等との連携を図り、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。

社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを重視

- ・教育基本法第5条第2項「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする」
 - 家庭科、技術・家庭科の改善の基本方針にも示されており、「生きる力」をはぐくむ教科として改善・充実を図る。
- ・学校教育法第21条第4号「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと」
 - 家庭科教育とかかわりの深い条文でもあり、「家族と家庭の役割」が示されたことを踏まえ、家族・家庭に関する教育の一層の充実が求められる。

- 家庭科については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

小学校、中学校の学習の体系化による基礎・基本の重視

- ・家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、「自己と家庭、家庭と社会とのつながり」という空間軸の視点と、「生涯の見通しをもつ」という時間軸の視点を踏まえ、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、小学校、中学校の指導内容の一層の体系化を図る。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能や生活を創意工夫する能力などの確実な定着を目指す。

- 社会の変化に対応し改善を図る。

少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。

心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導を充実する。

社会の変化への対応

- ・家族と家庭に関する教育などの充実、健全な食生活のための食育の推進、持続可能な社会（環境破壊等につながらない豊かなくらし）の構築のための消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を目指す指導の充実など、社会の変化に対応し主体的に生活の課題を解決できる能力をはぐくむことを目指す。

- 体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する。

実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実

- ・家庭科における学習活動の特徴である実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習を一層重視し、それらを通して、知識及び技能を活用する能力と自ら課題を見だし解決を図る能力の育成を目指す。

- 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

実践的態度を育成する教育の充実

- ・よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成するためには、家庭や地域社会との連携は欠かせない視点である。学校における学習と家庭や社会における実践の結び付きに留意して内容の改善を図る。

(2) 改善の具体的事項

- 生活を工夫する楽しさやものをつくる喜び、家族の一員としての自覚をもった生活を実感するなど、実践的・体験的な学習活動、問題解決的な学習を通して、自分の成長を理解し家庭生活を大切にしている心情をはぐくむとともに、生活を支える基礎的・基本的な能力と実践的な態度を育成することを重視する。

- ・家庭科においては、実習や観察、調査などの実践的・体験的な学習活動や、学習した知識及び技能を生かして、自分の生活の課題を解決するために考え、工夫するなどの問題解決的な学習を重視する。
- ・こうした学習を通して、自分の成長を理解し家庭生活を大切にしている心情をはぐくむとともに、生活を支える基礎的・基本的な能力と実践的な態度を育成する。

- 中学校の内容との体系化を図り、生涯の家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から、①家庭生活と家族、②食事のとり方や調理の基礎、③快適な衣服と住まい方、④身近な生活と消費・環境に関する内容で構成する。

- ・ 中学校の内容との体系化を図り、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する視点から、小学校、中学校ともに同じ枠組みをもつ内容に再構成する。
- ・ 小学校、中学校の学習の連続性と系統性を重視するとともに、小学校では、基礎的・基本的な知識及び技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実にはぐくまれることを目指している。

- 社会の変化に対応し改善を図る。
 - ・ 家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にすることを旨とした学習活動を一層充実する。
 - ・ 食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視するとともに、身の回りの生活における金銭の使い方や物の選び方、環境に配慮した物の活用などの学習について、他の内容との関連を明確にし、実践的な学習活動を更に充実する。

- ・ 少子高齢化、食育の推進、持続可能な社会の構築といった社会の変化や要請に対応して、主体的に生活をよりよくしようと工夫する能力や実践的な態度を重視して改善を図る。

- 家庭生活を総合的にとらえる視点から、家族の生活と関連させながら衣食住などの内容を取り扱うよう題材を構成する。また、小学校第4学年までの学習を踏まえた2学年間の学習のガイダンス的な内容を設定するとともに、他教科等との関連を明確にし、連携を図る。

- ・ 指導計画については2年間を見通してストーリー性のある計画を立て、子どもたちに学習への関心と見通しをもたせることを重視し、ガイダンス的な内容を設定する。
- ・ 家庭生活を総合的にとらえることができるようにする視点から、家族の生活を身近な環境や衣食住の内容などかかわらせて扱うことを一層重視する。

2 家庭科の目標のポイント

(1) 家庭科の目標

平成20年版学習指導要領

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることを旨とし、家族の一員として生活をよりよくしようとす実践的な態度を育てる。

平成10年版学習指導要領

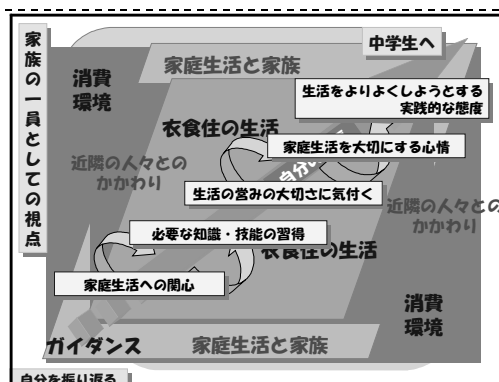
衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。

- 家庭科では、従来から、衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識及び技能と家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としてきた。
- 基本的な考え方は同様であるが、次の3点について改善が図られている。

- 1 これまでの「家庭生活への関心を高める」が、「**家庭生活を大切に**する心情をはぐくみ」と改善された。
 - 家庭生活への関心を高めるとともに、衣食住などの生活の営みの大切さに気付くことを重視して、表現が改められた。
- 2 これまでの「生活を工夫しようとする実践的な態度」が、「**生活をよりよくしようとする実践的な態度**」と改善された。
 - 生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を重視して、表現が改められた。
- 3 これまでの「基礎的な知識と技能」が、「**基礎的・基本的な知識及び技能**」と改善された。
 - 学習指導要領全体の表記と統一を図る視点から、表現が改められた。

- 家庭科の学習のねらいのイメージ図

- 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して
- ・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付ける。
 - ・家庭生活を大切に
- する心情をはぐくむ。
- 家庭生活への関心を高める。
- 衣食住の生活の営みの大切さに気付く。
- 意欲と態度へ
- ・家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。



図は、文部科学省資料による

(2) 学年の目標

平成20年版学習指導要領

- (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。
- (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。
- (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

平成10年版学習指導要領

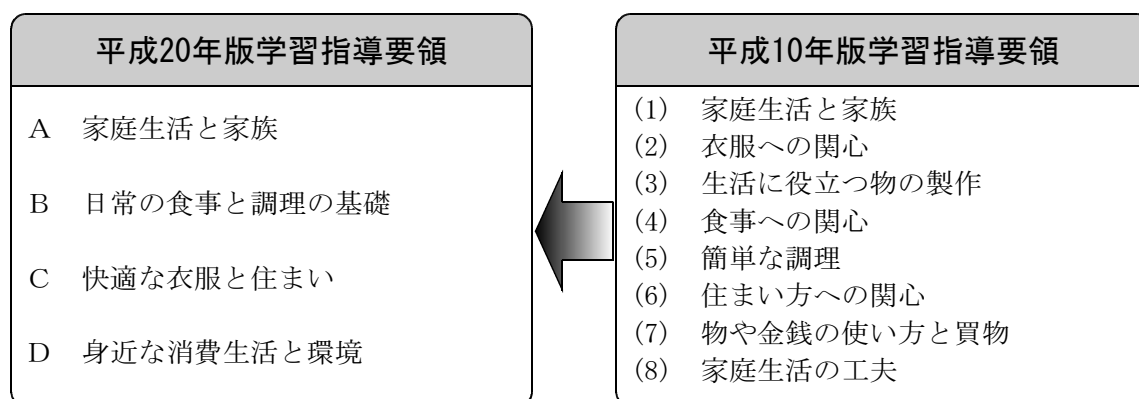
- (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を支えているものが分かり、家庭生活の大切さに気付くようにする。
- (2) 製作や調理など日常生活に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の身の回りの生活に活用できるようにする。
- (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。

- 学年の目標は、教科の目標に沿って家庭科で育成することを目指す資質や能力を具体的に示している。
- 資質・能力を3つの側面から示すことについては変更はない。
- 資質・能力をより明確にするために表現を検討した。

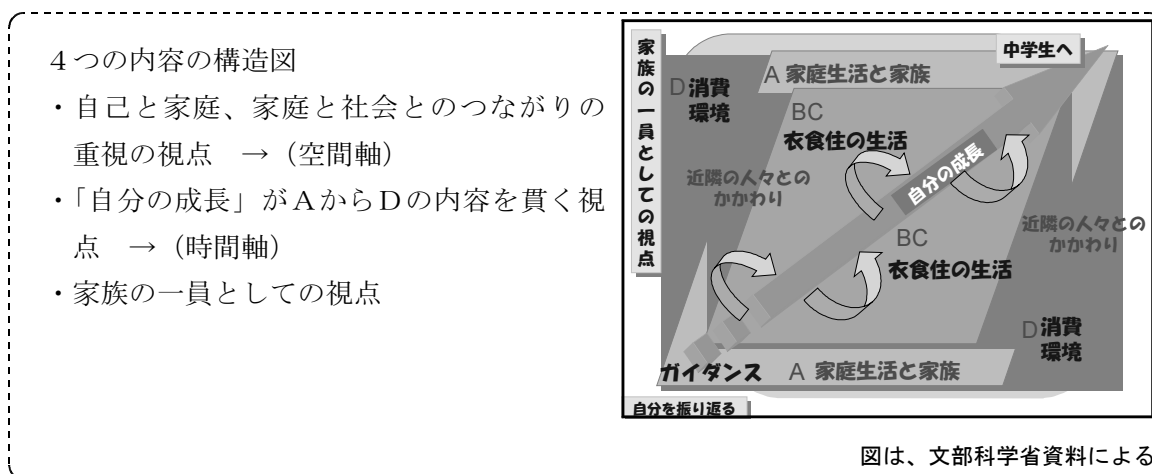
- (1)の目標 —— 教科の特質である実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、衣食住を中心とした生活の営みの大切さに気付くよう、関心・意欲を高めることの重要性を明確にしている。
- (2)の目標 —— 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、それらを生活に活用する能力を育成することを明確にしている。
- (3)の目標 —— 家族などのかかわりの中で、家庭生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育成することを明確にしている。

3 家庭科の内容のポイント

(1) 内容構成の改善



- 8つの内容構成を改め、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から、小学校と中学校の内容の体系化を図り、小学校、中学校ともに同じ枠組みをもつ4つの内容で構成している。



○ 小学校、中学校の学習指導要領の内容全体の概要は、下表のとおりである。

・小学校と中学校における内容の円滑な接続を図り、小学校での指導が中学校までの内容を見通したものとなるようにして、中学校につながる基礎的・基本的な知識及び技能、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を確実に定着させる。

表 小学校家庭、中学校技術・家庭（家庭分野）の内容一覧 ※枠囲みは選択事項、3学年間で1～2事項を選択

小学校	中学校（家庭分野）
衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	(分野の目標) 衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
A 家庭生活と家族	A 家族・家庭と子どもの成長
(1) 自分の成長と家族 ア 成長の自覚、家庭生活と家族の大切さ (2) 家庭生活と仕事 ア 家庭の仕事と分担 イ 生活時間の工夫 (3) 家族や近隣の人々とのかかわり ア 家族との触れ合いや団らん イ 近隣の人々とのかかわり	(1) 自分の成長と家族 ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり (2) 家庭と家族関係 ア 家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域とのかかわり イ これからの自分と家族、家族関係をよりよくする方法 (3) 幼児の生活と家族 ア 幼児の発達と生活の特徴、家族の役割 イ 幼児の観察や遊び道具の製作、幼児の遊びの意義 ウ 幼児との触れ合い、かかわり方の工夫 エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践
B 日常の食事と調理の基礎	B 食生活と自立
(1) 食事の役割 ア 食事の役割と日常の食事の大切さ イ 楽しく食事をするための工夫 (2) 栄養を考えた食事 ア 体に必要な栄養素の種類と働き イ 食品の栄養的な特徴と組合せ ウ 1食分の献立 (3) 調理の基礎 ア 調理への関心と調理計画 イ 材料の洗いや、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付け ウ ゆでたり、いためたりする調理 エ 米飯及びみそ汁の調理 オ 用具や食器の安全で衛生的な取扱い、こんろの安全な取扱い	(1) 中学生の食生活と栄養 ア 食事が果たす役割、健康によい食習慣 イ 栄養素の種類と働き、中学生の栄養の特徴 (2) 日常食の献立と食品の選び方 ア 食品の栄養的特質、中学生の1日に必要な食品の種類と概量 イ 中学生の1日分の献立 ウ 食品の選択 (3) 日常食の調理と地域の食文化 ア 基礎的な日常食の調理、食品や調理用具等の適切な管理 イ 地域の食材を生かした調理、地域の食文化 ウ 食生活についての課題と実践
C 快適な衣服と住まい	C 衣生活・住生活と自立
(1) 衣服の着用と手入れ ア 衣服の働きと快適な着方の工夫 イ 日常着の手入れとボタン付け及び洗濯 (2) 快適な住まい方 ア 住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方と工夫 イ 季節の変化に合わせた生活の大切さ、快適な住まい方の工夫 (3) 生活に役立つ物の製作 ア 形などの工夫と製作計画 イ 手縫いやミシン縫いによる製作・活用 ウ 用具の安全な取扱い	(1) 衣服の選択と手入れ ア 衣服と社会生活とのかかわり、目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 イ 衣服の計画的な活用や選択 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ (2) 住居の機能と住まい方 ア 住居の基本的な機能 イ 安全な室内環境の整え方、快適な住まい方の工夫 (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫 ア 布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫 イ 衣生活又は住まいについての課題と実践
D 身近な消費生活と環境	D 身近な消費生活と環境
(1) 物や金銭の使い方と買物 ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方 イ 身近な物の選び方、買い方 (2) 環境に配慮した生活の工夫 ア 身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫	(1) 家庭生活と消費 ア 消費者の基本的な権利と責任 イ 販売方法の特徴、物資・サービスの選択、購入及び活用 (2) 家庭生活と環境 ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践

- 内容構成に当たっては、生活における自分の成長を衣食住や家族の生活などの学習全体を貫く視点としてとらえるとともに、家庭生活と家族に関する内容、衣食住に関する内容、消費・環境に関する内容を大きな枠組みとしてとらえ、家庭生活を基盤としながら相互に関連を図って題材を構成することで、家庭生活を総合的にとらえられるようにしている。

・児童が家族や近隣の人々とかかわりながら、心身ともに健康で豊かに生活するための自立の基礎を培い、家庭生活を大切にする心情をはぐくむとともに、社会の変化に主体的に対応できるようにする。

(2) 内容項目の改善

- 少子高齢化、食育の推進、持続可能な社会の構築など、社会の変化に対応する視点から、4つの内容で構成している。

A 家庭生活と家族 自分の成長と家族や、家庭生活と仕事、家族や近隣の人々とかかわりといった学習を通して、家族の一員として成長する自分を自覚し、家庭生活を大切にする心情をはぐくむことを目指した学習活動を充実するための項目を示している。

内容項目の改善点

- ・「〇〇について、次の事項を指導する」という表現に改めた。B～Dについても同様である。
- ・「自分の成長と家族」を新たに加えた。
- ・「自分の成長と家族」の内容は、AからDの内容と関連させて学習することにより、「自分の成長」が2学年間の学習全体を貫く視点となっている。
- ・生活の中で実践することを重視して、「工夫すること」を「できること」に、「考え」を「工夫し」に改めた。
- ・平成10年版学習指導要領(8)「家庭生活の工夫」については、学習活動が家庭生活から離れがちだったことを踏まえ、環境の学習と切り離し、「近隣の人々とかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること」と改め、一つの指導事項とした。

B 日常の食事と調理の基礎 生活や学習の基盤となる食育を推進する視点から、食事の役割や栄養を考えた食事のとり方、調理などの学習活動を一層重視している。なお、中学校での扱いであった五大栄養素については、その基礎的事項を小学校において指導することとしている。

内容項目の改善点

- ・生活や学習の基盤となる食育の推進の視点から、(1)に食事の役割についての項目を加えた。
- ・(2)のアにおいては、五大栄養素の学習を中学校から移行し、その基礎的事項について小学校で指導する。
- ・(2)のウにおいては、「食事」を「献立」に改めた。「献立」という用語は、学校給食等でも日常的に使われており、なじみ深い言葉であるために使用したが、食品の組合

せに重点を置き、指導するという基本的な考えは従来どおりである。

- ・内容の取扱いでは、我が国の生活文化を継承し発展させる視点から、「米飯やみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることにも触れること」を示した。
- ・学校における食育については、「総則」に、「・・・学校における食育の推進（中略）については、体育の時間はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。・・・」とあり、家庭科を含めた学校の教育活動全体を通じて行うことが明記された。家庭科の内容の取扱いにおいても「食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するように配慮すること」を示した。

C 快適な衣服と住まい

人間を取り巻く快適な環境を作り出す要素として衣服と住まいをとらえる視点から、これらに関連させて学習することにより効果的な学習活動が展開されることを意図している。なお、課題選択となっていた「暖かさ、風通し、明るさなど」を「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」と改め、小学校で押さえる基礎的・基本的な内容としてすべての児童に学習させることとしている。

内容項目の改善点

- ・人間を取り巻く快適な環境を作り出す要素として衣服と住まいをとらえる視点から、(1)衣服の着用と手入れ (2)快適な住まい方 (3)生活に役立つ物の製作の3つの項目で構成した。
- ・平成10年版学習指導要領の「気持ちのよい住まい方」の指導事項を、(2)のイ「**季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること**」と改めた。これまでの「暖かさ、風通し、明るさなど」に関する学習内容を、内容の取扱いに示しているとおおり、主として「**暑さ・寒さ、通風・換気及び採光**」と改め、**すべての児童に学習させることとした**。
- ・生活の中で実践することを重視して、内容によって、「工夫すること」を「**工夫できること**」に、「考える」を「**工夫できる**」に改めた。
- ・製作については、製作したものを日常生活で活用することを通して布製品を評価する力を高める視点から、「**活用できること**」を加えた。

D 身近な消費生活と環境

社会において主体的に生きる消費者としての基礎を培う視点から、物や金銭の使い方と買物、身近な環境に配慮した生活の工夫についての内容を重視している。生活において主体的に実践できるようにするために、他の3つの内容との関連を図り、実践的に学べるように配慮する必要がある。

内容項目の改善点

- ・身近な生活環境に配慮して、社会で主体的に生きる消費者としての基礎を培う視点から、(1)物や金銭の使い方と買物 (2)環境に配慮した生活の工夫の2つの項目で構成している。
- ・持続可能な社会の構築の視点から、(2)ア「**自分の生活と身近な環境とのかかわりに気**

付き、物の使い方などを工夫できること」を新たに設けた。

- ・(1)のイについては、内容A、B、Cの学習で扱う用具や実習材料などの身近な物を取り上げ、物の選び方や買い方を考えさせることとしている。
- ・(2)については、内容B、Cの学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすることを内容の取扱いで示した。

4 家庭科の指導計画の作成と内容の取扱いの改善ポイント

(1) 指導計画作成上の配慮事項

- 題材の構成に当たっては、児童の実態を的確にとらえるとともに、内容相互の関連を図り、指導の効果を高めるようにする。

- ・育成する資質や能力を明確にし、その育成が図れるように内容や方法を吟味する。
- ・関連する内容を続けて学習したり、関連する内容を組み合わせたりするなどして、効果的な学習活動が進められるようにする。
- ・年間標準授業時数は、第5学年は60単位時間、第6学年は55単位時間であることを考慮し、実践的・体験的な活動をより一層充実させるために、各題材に適切な時間を配分する。

- 「A家庭生活と家族」の(1)のアについては、第4学年までの学習を踏まえ2学年間の学習の見通しを立てさせるために、第5学年の最初に履修させるとともに、「A家庭生活と家族」から「D身近な消費生活と環境」までの学習と関連させるようにする。

・「自分の成長と家族」の学習は、ガイダンスとして取り扱う。

* 第4学年までの学習や自分を振り返り、2年間の**学習の見通し**を立てる。第5学年の最初に履修させるガイダンス的な扱いとする。

・「自分の成長」をAからDの各内容を貫く視点として位置付けている。

* 題材間の関連を図り全体としてストーリー性のある年間指導計画を立てるようにする。



図は、文部科学省資料による

- 「B日常の食事と調理の基礎」の(3)及び「C快適な衣服と住まい」の(3)については、学習の効果を高めるため、2学年にわたって取り扱い、平易なものから段階的に学習できるよう計画する。

- ・基礎的なものから応用的なものへ、簡単なものから難しいものへ、要素的なものから複合的なものへと次第に発展するように、段階的に題材を配列する。
- ・題材は、学年の発展性や系統性、季節、学校行事、地域等との関連を考え配列する。
- ・2年間を見通して、他教科等との関連を図り、題材を配列する。

(2) 道徳との関連

- 道徳教育については、第1章総則第1の2及び第3章道徳第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、家庭科の特質に応じて適切な指導を行う。

- ・家庭科の目標である日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てることは、生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直すことにつながる。また、家庭生活を大切にす心情をはぐくむことは、家族を敬愛し、楽しい家庭をつくり、家族の役に立つことをしようとする事につながる。
- ・家庭科の年間指導計画の作成などに際して、道徳教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、相互に学習効果を高め合うようにする。

(3) 実習の指導

- 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行う。
- 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱う。
- 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意する。

- ・家庭科は実践的・体験的な活動を通して学習することを特徴としているので、その中心的な学習活動である製作や調理などの実習を安全かつ効果的に進めるために、事故の防止に留意して指導を行う。

(4) 家庭科における食育の充実

- 学校における食育については、子どもたちの生活や学習の基盤として、食に関する指導の充実が求められている。食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮する。

- ・家庭科などの食に関する指導を中核として、学校の教育活動全体で一貫した取組を推進することが大切である。
- ・家庭科における食に関する指導については、日常の食事を大切にする心、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方、食品の品質及び安全性等に関する基礎的な知識、調理の基礎的・基本的な知識及び技能などを総合的にはぐくむ観点から推進する。
- ・家庭科では、食材の購入から栄養価等を考えた調理、食事、片付け、廃棄物の処理までの一連の過程を計画的に系統的に学習する。
- ・小・中学校5年間の学習を計画的に積み上げ、健康的な食生活の実現を目指す。
- ・日常生活と関連させた指導が、食に関する知識や技能の定着につながる。

(5) 家庭との連携

- 家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮する。

・家庭科で学習する知識と技能などは、繰り返して学習したり日常生活で活用したりして定着を図ることができる。学習したことを基に家庭生活に生かし、継続的に実践できるようにするために、家庭との連携を積極的に図る。

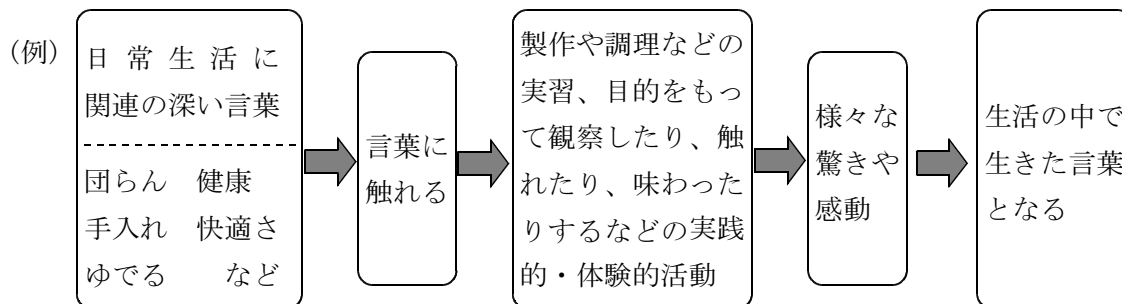
(例) ・家庭科の学習のねらいや内容について、授業参観や学年だより、学級だより等を通して情報を提供し、家族が家庭科の学習の意義や内容を理解できるようにする。

・家庭科で学習した内容を家庭でも実践できるように、協力を依頼する。

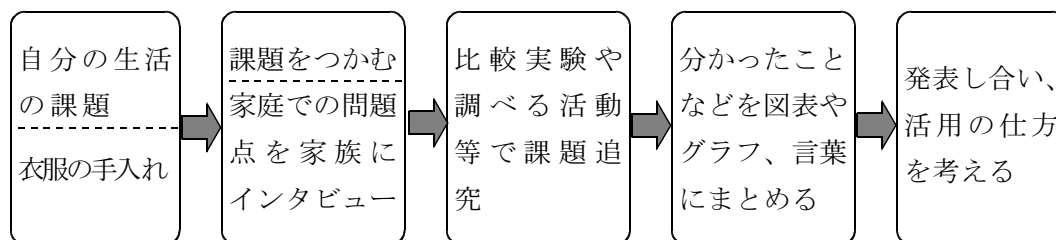
(6) 言語活動の充実と家庭科

- 実践的・体験的な活動や問題解決的な学習を通して、言語活動の充実を図りながら家庭科の学習指導を進めていくことによって、生活への感性が高まるとともに、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能やそれらを活用する能力を身に付けさせ、生活をよりよくしようとする実践的な態度をはぐくむ。

・衣食住など生活の中の様々な言葉を、製作や調理などにおける体験を通して実感を伴って理解する学習活動を充実する。



・言葉や図表、概念などを用いて、自分の課題に基づき生活をよりよくする方法を考えたり、実習などで体験したことを説明したり、表現したり、話し合ったりするなどの学習活動を充実する。



5 奈良県の郷土素材などを活用した指導例

◆第5学年の指導例①

社会のライフスタイルが変化し、「お茶」はペットボトルなどで簡単に飲むことができる。小学校3年生の社会見学で大和茶の工場見学をしているが、家庭で「お茶を入れる」体験が少なく、「お茶を入れて飲む」ことが身近な生活とは結び付かない児童がいるのが現状である。日本茶について知り、お茶の入れ方を学び、友達や家族やいろいろな人にお茶を入れてあげることにより、触れ合いや団らんの場を楽しくすることができることを知らせたい。

また、学習したことを知識だけで終わらせず、家の手伝いなど実生活の中で進んで実践し、家族の役に立つ喜びを知ってほしいと考えた。

- 1 題材名 「お茶を入れてみよう」 指導する領域：A 家庭生活と家族(2)ア(3)ア
B 日常の食事と調理の基礎(3)アオ

2 題材の目標

- 日本茶の種類やお茶を入れるときの用具を知る。
- せん茶の入れ方と相手へのすすめ方を知る。
- お茶を入れることを通して、人との触れ合いや団らんの場をもつことができる。

3 指導のポイント

- 日本地図を使ってお茶の生産地を知らせ、大和茶に関心をもたせるようにする。
- お茶を入れるときの用具の名前と使い方が分かり、関心・意欲を高めるため、班で協力して、一人一人が体験できるようにする。
- お茶の入れ方の学習を通して会話がはずむよう、お茶菓子を用意して楽しいひとときとなるようにし、家でも実践しようという気持ちをもたせる。

4 学習計画

全4時間

学習指導要領の内容・項目・事項

- | | | |
|---------------------------|-----|--------------------|
| ○ 1日の生活を見つめてみよう・・・・・・・・・・ | 1時間 | A(1)ア |
| ○ 家族と協力して生活しよう・・・・・・・・・・ | 1時間 | A(2)ア |
| ○ 自分ができることを増やそう・・・・・・・・・・ | 2時間 | A(2)ア A(3)ア B(3)アオ |
| お茶を入れてみよう・・・・・・・・・・ | 本時 | (3・4/4時間) |

5 展開例

(1) 本時の題材 お茶を入れてみよう (本時 3・4/4時間)

(2) 本時のねらい

- ガスコンロの安全な取扱い方を知る。
- せん茶の入れ方を知る。
- 班で工夫してお茶を入れることを通してコミュニケーションを図ることができる。

(3) 展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
お茶を入れてみよう		
1 ガスこんろの安全な取扱い方について知る。 ・一人一人が点火から消火までの手順を体験する。 ・湯をわかす。(火加減)	・点火する前に、まわりに燃えやすい物がないか注意させる。 ・点火(押し回し)が難しいので、班で協力させる。	◇安全に気を付けているか。
2 大和茶について振り返る。	・奈良県でも郷土の大和茶が奈良市で生産されていることを再確認する。	◇茶葉の種類、入れ方を理解しているか。
3 緑茶のおいしい入れ方、すすめ方を知る。 ・準備する。	・茶の種類によって茶葉の量、お湯の温度、浸出時間が違うことを教える。 ・人数分のお湯が入らないこともあるので、急須の中に入るお湯の量と茶葉の量を確認しておく。	◆準備するもの (お盆 急須 ゆのみ 茶たく せん茶 やかん)
4 せん茶を入れる。 ・せん茶は相手の右側に出す。 ・茶菓子を相手の左側に出す。	・お茶の濃さが均一になるように少しずつ「注ぎ回し」させる。 ・急須の中にお湯を入れておくと、二煎目が苦くなるので、一滴も残さないように注ぎきるよう指導する。	◇せん茶を入れることができるか。
5 お茶を飲みながら、楽しい団らんの場をもつ。	・右手で茶碗をもって左手にのせ、右手をそえて飲む飲み方があることを知らせる。 ・懐紙の意味を教え、紙の折り方とお菓子の置き方を示範する。	◇コミュニケーションを図ることができているか。
6 後片付けをする。	・協力して手早く片付けるよう言葉がけをする。	
7 家でも、お茶を入れる実践をする。	・家の調理器具に合わせて、学習したことを基に気を付けながらお湯を沸かし、お茶を入れるようにさせる。	◆ワークシート

参考資料

(1) 大和茶について

- 大同元年(806)に弘法大師が唐より茶の種を持ち帰り、高弟堅恵けんねが現在の宇陀市の佛隆寺に種を植えて、その製法を伝えたと言われている。
- 大和茶は、奈良県内で生産されたお茶の総称ブランドで、奈良県産茶葉を100%使用している。
- 奈良市・山添村・宇陀市・天理市などの大和高原や大淀町・東吉野村で栽培され、山間の冷涼な気候の下で、良質な「せん茶」や「番茶」が生産されている。

(2) 茶葉とお湯の温度

1人分	茶葉の量	湯の温度	おく時間
玉露	3.2g 大さじ軽く1杯	50℃	120秒
煎茶	2g 大さじ8分目	70℃	60秒
番茶	3g 大さじ1杯	熱湯	30秒

お茶を入れてみよう	
材料と分量	写真や絵
入れ方	
分かったことがんばったこと	
お家の人から	

[ワークシートの例]

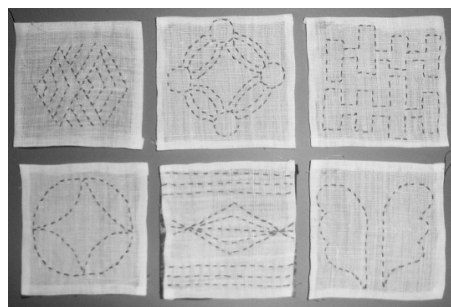
◆第5学年の指導例②

奈良の伝統素材である「奈良晒」の歴史や製法にふれ、昔と変わらない製法を受け継いだ布を用いて、手縫いとミシン縫いの手法でコースターを作る。

1 題材名 「布製コースターを作ろう」 指導する領域：C 快適な衣服と住まい(3)アイウ

2 題材の目標

- おいしい大和茶を飲むときに使う手作りの布製コースターを作ることができる。
- 刺し子模様を手縫いすることができる。
- 2枚の布をミシン縫いで縫い合わせることができる。



3 指導のポイント

- 奈良晒、刺し子という日本の伝統ある織物、手芸法を学ぶ。手縫いの図案には日本の伝統である「刺し子」の図案を紹介し、児童がその中から選んだり、自分でオリジナルの図案を創作したり、カラフルな刺し子糸を数種類用意したりして、図案の工夫ができるようにする。また、柄布は古布調の物を用意し、児童が無地布との調和を考え、好みの物を選べるようにする。
- 玉結び、玉どめ、なみ縫い、ミシン縫いの技能を応用して作品を仕上げる。
- 自分の手作り作品を大切に扱い、生活の中で役立つ使い方をしたり、さらに作ったりしたいという意欲をもたせる。また、2枚の布を縫い合わせるときに「イニシャルテープ」(自分のオリジナル作品という証)を挟み込み、より自分の作品に愛着がもてるようにする。

4 学習計画

全3時間 学習指導要領の内容・項目・事項

- 奈良晒を知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間 C(3)ア
- 図案を工夫し、手縫いしよう・・・・・・・・・・1時間 C(3)アイウ
- ミシン縫いで2枚の布を縫い合わせよう・・1時間 C(3)イウ

5 展開例

(1) 題材 布製コースターを作ろう (本時1~3/3時間)

(2) ねらい

- 自分の作品を製作する意欲をもつ。
- 図案を工夫することができる。
- 手縫い(玉結び、玉どめ、なみ縫い)、ミシン縫いを用いた直線縫いができる。
- 用具の安全な取扱い方ができる。

(3) 全3時間の展開

次	時	学習活動	指導上の留意点	備考
1	1	奈良晒を知る。	・奈良晒の歴史や製法を知らせる。	◆市販品や作品の実物見本

2	1	図案を考え、手縫いする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刺し子の図案を参考に自分の図案を工夫させる。 ・ 用具を安全に使い、一針一針ていねいに図柄を縫わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 刺し子図案 ◇ 図案を工夫しているか。 ◆ 裁縫用具 ◆ 無地布、刺し子糸
3	1	ミシン縫いで2枚の布を縫い合わせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぬいしろを内側に折り、2枚の布を合わせ、布の端を一周ミシン縫いし、そこから約1cm内側を一周ミシン縫いさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 柄布、ミシン、ミシン糸 ◆ イニシャルテープ ◇ 作りたい物ができたか。

参考資料

(1) 奈良晒について

大麻糸を1か月かけて丁寧に織りあげる麻布は、真っ白く涼やかであり、越後上布を母とし、岩走る垂水から生まれると言われてきた。遠く古事記に源を発し、鎌倉時代の南都寺院の袈裟として使われてきた。桃山時代に清須美源四郎が晒法の改良に成功し、武士の袴や夏の単衣ものとして販路が広がり、麻織物の一級品としてその名が天下に知れ渡った。

幕府にも納められ、家康は御用品とするとともに、奈良晒の製造・販売を掌握・統制する制度を作っていくほどの発展産業であった。江戸後期には越後や近江などの産地の台頭により、生産量は1割になり、さらに明治維新以後、衰退が決定的なものとなった。

その後、N店主10代（現在は13代）の尽力で、皇室御用達（風呂上がりの汗取りや産着）として指定され、月ヶ瀬・田原・福住に作業場を、木津川に晒工場を建て製造復興してきた。

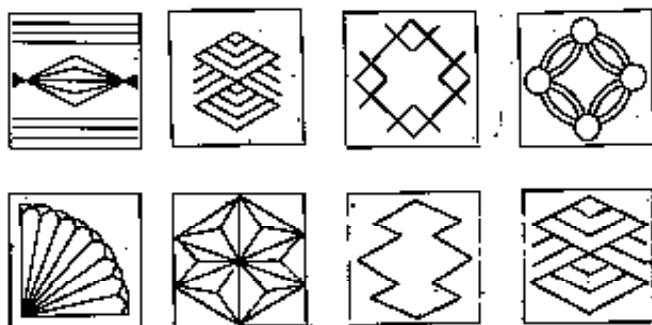
1疋（約24m）の生地に必要な糸1.2kgを紡ぐのに24日、生地を織るのに熟練の織子でも10日かかるが、現在では品質の安定、効率化・機械化が進み、現代の暮らしにマッチした茶巾・のれん・バッグ・ポーチなど様々な商品開発が行われ、人気を博している。

(2) 刺し子について

刺し子とは、手芸の一分野で、布地に糸で幾何学模様等の図柄を刺繍して縫いこむことである。保温、補強等のため木綿布に木綿糸で補強したものがはじまりとされている。藍色の木綿布に白糸で刺すものが定番であるが、最近では、布・糸ともカラフルな色合いのものもある。

有名な刺し子技法には津軽の「こぎん刺し」、南部の「菱刺し」、庄内の「庄内さし」があり、これらを日本三大刺し子という。

(3) 刺し子の図案例



図案	図案の工夫したところ
作品	作品を製作した反省・感想
	お家の人より

[ワークシートの例]

◆第5学年の指導例③

真新しい裁縫箱を手にして「いろいろなものを縫ってみたい。」と期待をふくらませているが、実際に針と糸を手にとると、なかなか思うように進めることができない児童が多い。家庭生活が大変便利になり、家庭で手縫いをする機会が減ってきた。児童が実際に、家庭で手縫いをしているところを見ることも少なくなってきたようである。

そこで、児童の意欲や期待を大切に、楽しく作品を作らせながら、基礎・基本の定着を図りたいと考え、指導の工夫をした。

1 題材名 手縫い名人にチャレンジ！－基礎的・基本的な技能を楽しく身に付ける練習－

指導する領域：A 家庭生活と家族(3)イ

C 快適な衣服と住まい(3)アイウ

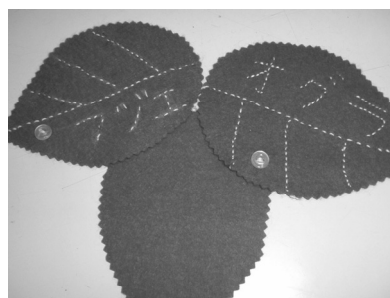
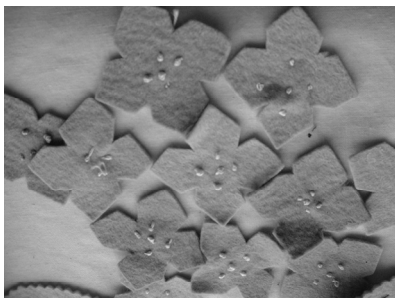
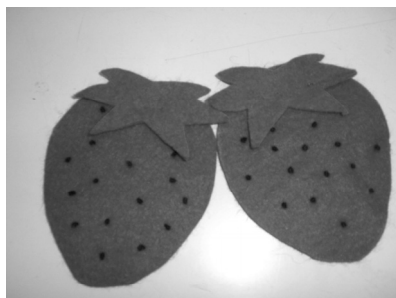
2 題材の目標

- 手縫いで作る楽しさを味わう。
- 自分なりに工夫をして製作をすることができる。
- 簡単な縫い方で完成させることができる。



3 指導のポイント

- 小物を作りながら基礎的・基本的な力をしっかりと身に付けて自信をもたせたいと考え、経験豊かな地域の方の協力を得て、手縫いを教えてもらうという授業を組み立てた。みんなと同じ時間の中でできるようになった喜びはとても大きなものとなり、それが自信や達成感につながる。「私にもできた！」という感動や製作の喜びを家庭科学習の中で体験させたい。
- 自分の好きな色のフェルトを選んでいちごやあじさいの花の形に切り、玉結びや玉どめを練習するだけで作品ができあがる。短時間で成果が得られることで、児童は達成感を得るとともに楽しんで取り組むことができるであろう。あじさいの花びらは色違いの花びらを使って縫うこともできる。
- フェルトは布の周りがほつれないように加工しているので、2枚のフェルトを合わせてマスコットを作ることも考えられる。
- この作品作りに取り組むことで、さらに「もっと作ってみたい」という興味・関心を高め、今後の製作活動や自分の生活に生かすことができるものを作りたいという意欲につなげていきたい。



- 4 学習計画 全5時間 学習指導要領の内容・項目・事項
- 第1次 花と葉っぱを作る計画を立てる・・・1時間 C(3)ア
- 第2次 玉結びや玉どめ、なみ縫いをして仕上げる・3時間(本時 1/3時間) C(3)イウ
- 第3次 作品発表会をする・・・1時間 A(3)イ

5 本時の展開

(1) 本時の題材 手縫い名人になろう！ フェルトで花を作ってみよう(本時 1/3時間)

(2) 本時のねらい

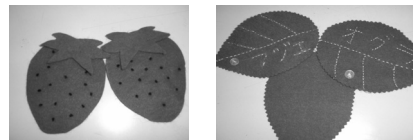
- 縫って作る楽しさを味わう。
- 玉結び、玉どめ、なみ縫いができる。

(3) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
手縫い名人になろう！ フェルトで花を作ってみよう		
1 自分の作る作品を決める。	・作品の実物見本と段階見本を用意しておく。	◆作品の実物見本と段階見本
2 材料と用具を確認する。	・用具の置き場所を明示しておく。	◆フェルト
3 計画にそって製作する。 ・玉結び、玉どめをする。 ・なみ縫いをする。	・用具の安全な取扱いについて確認する。 ・まちがえても縫い直しができることや、途中で作りたいものを変更してよいことなどを確認し合い、安心して取り組めるようにする。	◆裁縫道具
4 友達と情報交換したり地域の方に教えてもらったりしながら作る。	・分からない場合は友達の様子を観察したり、地域の方に教えてもらったりするように声をかけておく。 ・縫い方は教員が指示するのではなく、作りながら子ども自身で学んでいくよう助言する。	◇楽しく作っているか。 ◇玉結び、玉どめ、なみ縫いのできたか。
5 使った用具がそろっているかを確認する。	・結果だけでなく作り上げるための過程における努力も評価する。 ・でき上がった喜びを共に味わうようにする。	◇作りたいものができたか。
6 気付いたことをふりかえりカードに書く。	・次時に手順や縫い方を友達に紹介することを意識して書くようにさせる。	◆ふりかえりカード
7 次時予告		

手ぬい名人にチャレンジ！

これまでに学習した玉結び・玉どめ・なみぬいで
いちごやあじさいを作ってみましょう！



- (1) 作ってみたいもの ()
- (2) 型紙どおりにしるしをつけて切る。 しるしどおりに切ることができた |—————|
- (3) 玉どめを10こ作ればできあがり。 玉どめができた |—————|
- (4) 葉っぱにしるしをつけて切る。 葉っぱの形に切ることができた |—————|
- (5) さしぬいと名前のぬいとりをする。 なみぬいでまっすぐにぬえた |—————|

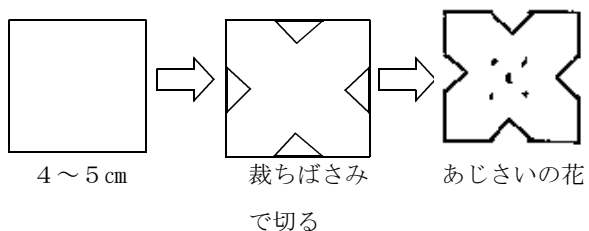
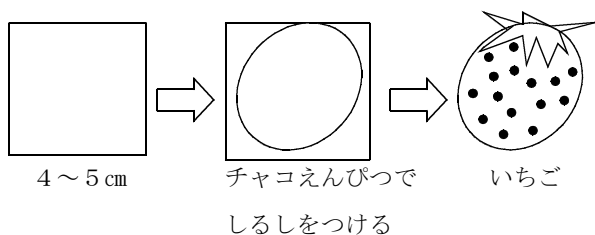
※ふりかえってみよう！

楽しくできた |—————|

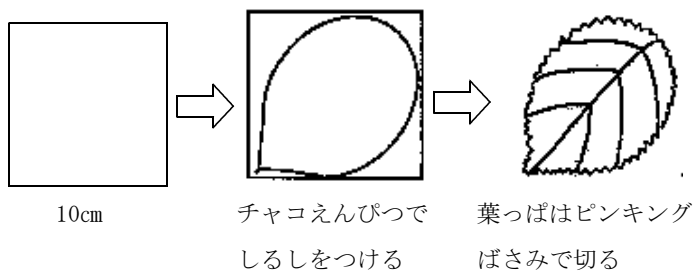
満足できる作品ができた |—————|

[ふりかえりカードの例]

資料



※あじさいの花びらは色違いの花びらを使って縫うこともできる。



○奈良のいちご

奈良のいちごである赤い宝石「あすかルビー」は、奈良の特産品27品目の中の一つである。この名前は色と光沢が「まるで宝石のよう」で、さらに「奈良らしさ」を加えてつけられた。

(平成12年2月に品種登録)

○あじさいの花

花の色が白から青紫色、紅紫色と変わるので七変化とも言われる。そこでフェルトの色もピンクや水色、薄紫などを用意しておくことで児童の意欲もより高まる。

○作品例

壁かけ、タペストリー、マスコット、ミシンのカバー など

◆第6学年の指導例

春日若宮の「おん祭」は、1136年に初めて行われ、大和の年中行事の最終を飾るにふさわしい祭りである。藤原忠道が五穀豊穰、万民安楽を祈念し、大和一国を挙げてとり行ったものである。奈良ではこの日に「のっぺ」を食べる習慣があった。材料は、だいこん・にんじん・ごぼう・さといも・油あげの五品とこんにゃくをゆでたものである。この油あげは、おん祭用に特別に売られる2寸立方角のものである。(1寸は約3.03cm)

東北や北陸地方の郷土料理の「のっぺい汁」は野菜や鶏肉の煮汁に片栗粉でとろみをつけるが、「奈良のっぺ」は、片栗粉は使わず、さといもの自然なとろみでいただく。

1 題材名 楽しい食事を工夫しよう

ー奈良の郷土料理「奈良のっぺ」を作ろうー

指導する領域：B 日常の食事と調理の基礎(1)アイ(2)イウ(3)アイウオ

2 題材の目標

- 日常の食生活や地元野菜の特産物に関心をもち、奈良の郷土料理にふれる。
- 奈良の郷土料理の一つである「奈良のっぺ」の由来や特徴を知る。
- 調理計画を立てて、「奈良のっぺ」を手順よく調理できる。



3 指導のポイント

- 「楽しい食事を工夫しよう」の項目で、「地域に古くから伝わる料理」として、おん祭に「奈良のっぺ」が振る舞われる寒い時期に『奈良のっぺ』を作ろうを設定し、郷土の文化に触れる機会をもつ。
- 実習では、調理の基礎や安全に調理することを学習し、「奈良のっぺ」に使われるだしを知り、使う野菜とその切り方を工夫することでさらにおいしく作れることを理解させる。
- 「奈良のっぺ」は山に囲まれた奈良の風土に合ったものであり、昔からその土地でとれた芋や旬の野菜が使われている。素朴な味付けであるが、油あげと野菜のうま味でとてもおいしく作ることができる。班で協力しながら調理をし、おいしくできあがるという自信をもたせ、家にある野菜で作るよう指導する。
- 自由研究で奈良の郷土料理を調べる取組を進め、家庭での食事作りや奈良の家庭でも郷土料理を受け継いでいこうとする態度をはぐくみ、食生活を豊かにしようとする児童の育成につなげたい。

4 学習計画

	全4時間	学習指導要領 の内容・項目・事項
第1次 奈良の郷土料理を知り、「奈良のっぺ」の調理計画を立てよう・1時間		B(2)イウ(3)ア
第2次 調理手順に従って協力して作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間		
	(本時1・2/2時間)	B(3)アイウオ
第3次 感想を振り返る。家族と楽しく食事をする工夫をしよう・・1時間		B(1)アイ

5 本時の展開

(1) 本時の題材 奈良の郷土料理 「奈良のっぺ」を作ろう

(2) 本時のねらい

- 実習計画に基づいて「奈良のっぺ」を作ることができる。
- 既習の知識や技能を生かし安全・衛生に気を付け、協力して調理に取り組むことができる。

(3) 展開

学 習 活 動	指導上の留意点	備 考
1 「奈良のっぺ」の調理の手順を確かめる。	・めあてを確かめる。	
奈良の郷土料理「奈良のっぺ」を作ろう		
2 準備をする。 ・身支度、手洗い ・調理計画の確認 ・用具や材料の準備 ・手順や分担の確認	・時間の流れを確認する。 準備、調理、盛り付け、 試食、片付け、まとめ ・野菜の切り方などを示範する。	◇調理の手順が分かっているか。
3 調理をする。 ・油あげとこんにゃくは一口大の三角に、野菜は乱切りにする。 ・鍋に切った物を入れ、材料がかぶるぐらいのだし汁を入れる。 ・あくを取りながら煮込む。 ・野菜がやわらかくなったら、塩としょうゆで味を付ける。 ・盛り付ける。 ・まな板・包丁を片付ける。 ・食器を準備する。	・安全に気を付け、包丁の使い方や切り方が適切であるか、グループごとに助言や励ましの言葉をかける。 ・だし汁は、にぼしだし・鶏がらスープで取り、準備しておく。 ・使わなくなった器具を片付けるように声かけをする。 ・加熱している間に郷土料理や野菜の説明をする。	◇野菜などの切り方を工夫しているか。 ◇安全に気を付けて調理をしているか。
4 試食する。 ・マナーに気を付け、味わって試食する。		◇手順を理解し、進んで調理に参加しているか。
5 後片付けをする。 ・用具や食器を洗ってふき、元の場所に戻す。	・用具やごみの後片付けについて確認をする。	◇班で協力して後片付けができたか。
6 実習を振り返り、感想を書く。		
7 次時の学習内容を確認する。		

資料

奈良の郷土料理 「奈良のっぺ」を作ろう

材料	6人分
さといも	6個
だいこん	200g
にんじん	60g
ごぼう	20g
こんにゃく	1丁
油あげ	3個
だしじる	4カップ
塩	少々
しょうゆ	大さじ1

作り方

- ①さといもは皮をとって塩でもみ、水洗いをする。
- ②だいこん、にんじん、こんにゃく、ごぼうを切る。
- ③油あげを切る。
- ④鍋に①②③を入れ、材料がかぶるくらいのだしじるを加えて加熱する。
- ⑤材料がやわらかくなったら、塩としょうゆで味をつけさらに加熱する。

準備用具

ふきん 台ふきん 計量カップ
計量スプーン なべ まな板
ほうちょう ボール 玉じゃくし

実習を振り返ってみよう

できた○ できなかった△

- ・材料を適当な大きさに切った・・・[]
- ・材料をやわらかく煮ることができた・・・[]
- ・味がよかった・・・[]
- ・班で協力してできた・・・[]
- ・後片付けを進んでした・・・[]
- ・ふきんを使ってふいた・・・[]
- ・流しや調理台・ガス台などをふいた・・・[]
- ・郷土料理に関心をもてた・・・[]
- ・安全に気を付けてできた・・・[]

感想・班で協力したこと

ポイント

- 1 だしじるは、一晩水につけこんでおいた煮干し魚のだしじるがおいしいです。
- 2 野菜のうまみを引き出すように急がずゆっくり加熱しましょう。さといもが煮くずれると自然にとろみがつくでしょう。

[ワークシートの例]

— 作 成 委 員 —

川 本 敦 子	奈良市立東登美ヶ丘小学校	校 長
小 林 佳 永	奈良市立富雄北小学校	教 諭
高 橋 嘉 子	奈良市立三碓小学校	教 諭
山 林 律 子	天理市立朝和小学校	教 諭
堀 田 優 子	奈良県立教育研究所	研究指導主事
前 田 景 子	奈良県教育委員会事務局学校教育課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成21年度のものである。)

